

【様式1】

令和6年度 授業改善推進プラン

東久留米市立小山小学校 第3学年

教科	学力に関する各調査に基づく児童の学習状況分析 (数値等で具体的に示す)	具体的な授業改善策及び目標値 (数値等で具体的に示す)
国語	<ul style="list-style-type: none">・東久留米市の学力調査によると、「作文を書く・推敲・かぎかっこ」が36%と全国平均と比べ低い。・授業では作文を書くことに意欲的に取り組んでいるが、言葉を正しく使って書くことができる児童が60%程度で、課題がある。	<ul style="list-style-type: none">・作文や物語を書こうとする意欲は高いため、その気持ちは尊重していく。正しく書くことを意識できるように視写をさせたり、言葉の使い方や書き方等の既習内容について掲示し、言葉を正しく使って書くことができる児童を70%とすることを目標とする。
算数	<ul style="list-style-type: none">・単元末テストの結果によると、「時こくと時間」や「長さ」の学習に課題が見られる。正答率は約70%であるが、理解度に差が見られる。・ベーシックテストでは、全体の正答率が70%を越えており、基礎・基本が身についている様子も見られる。	<ul style="list-style-type: none">・可能な限り用具を使い、体験を通して学びを深め、知識を身に付けることができるようにする。生活の中で生かすことで定着させていく。・基礎・基本が定着するよう、九九の確認をしたり、間違いをそのままにせず直して理解できるまで指導したりして、次回の学力調査では今回課題となった項目の正答率を70%以上にする。
社会	<ul style="list-style-type: none">・社会の学習が初めてであるため、意欲的ではあるが、社会科の見方・考え方を働かせて思考することができる児童がテストやノートの様子から見取ると40%程度である。	<ul style="list-style-type: none">・社会科の見方・考え方を意識させて授業をすることができるように、くらべる・分ける・まとめる・つなげるといった見方・考え方を掲示したり、意識できる板書をしたりすることで、見方・考え方を働かせて思考することができる児童を70%以上にする。
体育	<ul style="list-style-type: none">・体力テストにおいて、男子は、50m走、上体起こし、長座体前屈以外全て全国平均を下回っているが、大きな差がなく、ほぼ全国平均と同じ数値である。一方、女子は、長座体前屈以外全て全国平均を下回っている。握力は8ポイント、20mシャトルランは4ポイント下回っており、男子と比べて全国平均と差が大きい。	<ul style="list-style-type: none">・体育の授業で外部との連携を図り、より専門的な指導を受けることで、児童の体力が向上するように工夫する。来年度の体力テストで、今回下回っていた種目が全国平均値に届くようにする。・動画等を使ってポイントを示し、めあてをもって様々な運動に取り組めるようにする。